

甲状腺の病気について

甲状腺の病気には、ホルモンの分泌異常から起こる機能性のものと結節（しこり）ができる腫瘍性のもの二つに大別されます。

1. 甲状腺の機能異常によるもの

甲状腺機能異常には大きく分けて、機能亢進症（ホルモンが出すぎる）、機能低下症（ホルモンが出にくくなる）の二通りあります。

甲状腺機能亢進症の原因と症状

バセドウ病：自己抗体が自身の甲状腺を刺激し続けることで起こります

無痛性甲状腺炎：甲状腺の自己免疫異常で一時的に甲状腺が壊れることにより起こります。痛みはありません。

亜急性甲状腺炎：上気道炎などのウイルス感染に引き続いて起こるといわれています。**圧痛（かなり痛い）が特徴**です。



主な症状

甲状腺腫大	眼球突出
頻脈	動悸
異常発汗	体重減少
集中力低下	手の震え
暑がり	イライラする

甲状腺機能低下症の原因と症状

橋本病：自己抗体が自身の甲状腺を壊すことでホルモンが作れなくなります（**不妊の原因にもなります**）



主な症状

甲状腺腫大	まぶたの浮腫
無気力	眠気
寒がり	物忘れ
体重増加	

ホルモンの異常は日常生活に大きな影響を及ぼします（仕事のミスが増えたり、成績が低下するなど）。

これらの異変を感じた時には受診するようにしましょう。甲状腺機能異常は採血で診断がつきます。

2. 腫瘍性のもの

くびの腫れ、すなわち甲状腺腫といわれるものです。鏡などを見て自分で甲状腺腫に気づくこともあれば、ほかの人に指摘されて病院を訪れる人もいます。

甲状腺腫には良性と悪性（癌）があります。これらは**採血結果では判別することができません**。触診の後に超音波検査を行い、細胞診（超音波で確認しながら細い針を刺して細胞を採る）を行うことで初めて診断がつきます。

注）なお、腫瘍の大きさは良悪性の鑑別には関係ありません。小さいからといってそのままにしてはいけません。

当院での甲状腺疾患の治療

バセドウ病

1) 内服加療

→ほぼすべての患者様が最初に行います（内服治療のみで寛解する方は約 30%程度）

2) 放射性ヨード内用療法（アイソトープ治療）

→**当院外来で行うことができます**。手術合併症がないなどのメリットがあります。

（バセドウ病眼症のある方、18 歳未満の方、妊娠中や妊娠希望の方、授乳中の方などは行うことができません）

3) 手術

→内服加療が副作用により継続できない方、眼症が悪化傾向の方、妊娠希望の方などが適応になります。

なお、当院では積極的に**内視鏡手術**にて治療を行っています

バセドウ病以外の機能亢進症や機能低下症

内服加療が中心になります

甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍

1) 良性腫瘍

→症状のあるもの、頸部のしこりが目立つものに対して**内視鏡手術**にて治療を行っております

なお、嚢胞（水ぶくれ）によるものはエタノール注入にて治療することも可能です

2) 悪性腫瘍

→手術にて加療します（進行度によりますが可能なものは**内視鏡手術**にて治療を行っております）

当院は良性腫瘍、悪性腫瘍のいずれに対しても内視鏡手術の施設認定を受けております

2018 年甲状腺・副甲状腺手術実績

手術件数:61 件（**うち内視鏡手術 39 件**）

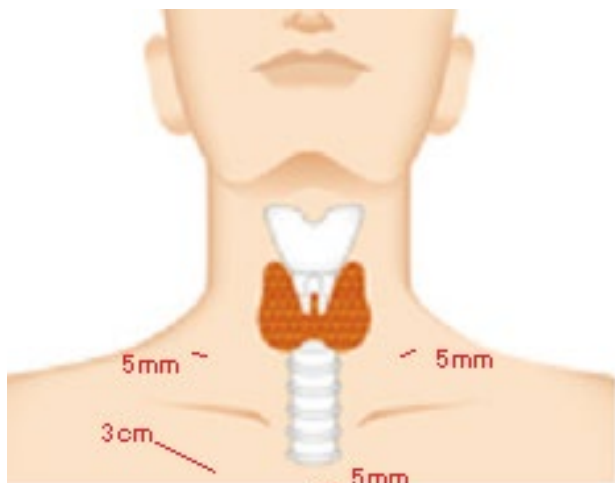
甲状腺良性腫瘍:27 件（**24 件**）

悪性腫瘍:15 件（**4 件**）

バセドウ病:13 件（**7 件**）

副甲状腺良性腫瘍:6 件（**4 件**）

内視鏡下甲状腺切除術



従来の切開とは異なり、右鎖骨下に 3cm、前胸部や必要に応じて左右の頸部に 5mm の切開をおいて手術します



従来の皮膚切開の創部



内視鏡手術の皮膚切開の創部

手術に伴う影響ならびに合併症については術式での違いはありません

主な影響や合併症は以下の通りです

1. 反回神経麻痺（嘔声←声のかすれ）
2. 低カルシウム血症によるしびれ感（テタニー）
3. 術後出血
4. 上喉頭神経外枝損傷
5. 頸部の違和感
6. 創部感染
7. 甲状腺機能低下症（全摘の場合には永続性）

注)なお、腫瘍の大きさなどにより内視鏡手術が適応とならない場合があります

年齢や性別によって適応が変わることはありません